

第 1 回研究会

平成 1 8 年 6 月 2 日 (金) 午後 2 時
消防庁舎大会議室

主な内容

江南市戦略計画 (次期総合計画) 策定方針概要の説明
まちづくりにおける協働の必要性について

【小林慶太郎会長あいさつ要旨】

協働とは、英語のコラボレートの訳語とされている。

数種類の楽器で演奏したり、異なったジャンルで共同開発したりと、音楽や商品開発ではコラボレートが盛んに行われている。

行政だけ、あるいは市民だけで手に負えない分野で協働が必要である。

ごみ処理の分野で、分別は住民が、収集は行政がという具合に、今は成り行きで行われているかもしれないが、実際にはすでに協働がなされている。

協働することに不向きな分野もある。プライバシーの問題があるものや、行政が一元的に行わなければ混乱してしまうものもある。

協働の担い手も様々で、市民、地域的には自治会、目的別には N P O ・ボランティア、企業も含まれてくる。

協働のスタイルとしては、話し合いから始まり、契約が必要になってくるものでは委託というようなスタイルもあり様々である。

協働してみて、いい成果が生まれたか、自己満足に終わらないよう、評価が必要である。お互いの良いところをうまく出し合うようなルール、指針づくりが必要である。

江南市では現在、平成 20 年度からスタートさせる戦略計画 (次期総合計画) を策定中です。この計画の中の「協働の基本的な考え方」について、研究会が検討することになっています。そのため、戦略計画策定方針の概要が説明されました。

ワークショップを行いました。

| | | |
|-----|-----|--|
| テーマ | 協働は | 何のために（目的、理念） どういうときに（場面、場合） どういうやり方で（方法） 誰が（担い手） など |
|-----|-----|--|



きれいにまとめることはできませんでしたが、いろいろな思いを語っていただきました。

まちの将来像

- ・住みたいまち、市民が誇りをもてるまち、市民が幸福だと感じるまちにしたい。
- ・市民が主人公のまちにしたい。



目的、理念をしっかり持ちながら協働することが重要だ。
協働することで行政の無駄が削減できる。
協働することによって市民が社会参画することができる。
より現状にあった公共サービスを提供できるようになる。
住民自治が発展する。

協働の担い手

- ・担い手の主体としては、市民、地域（区・町内会、地域組織）、NPO、企業、行政。
- ・地域の力が必要だ。
- ・協働の担い手となるいろいろな人材の発掘が必要だ。

団塊の世代、サラリーマン退職者、若いボランティア、学生、地域課題解決に対する賛同者など

不満ばかりではいけない。言うべきことは言うようにするが、行政を理解することも必要だ。

担い手相互は対等な関係であり、相互に信頼関係を築くことが必要だ。お互いを尊重する。

協働は将来に向けてつなげていかないといけない。江南市のよさを子どもたちに伝えていく。

どういった協働を進めていくかを議論することが必要だ。市民からも情報を提供していくことが必要だ。行政からの提案も必要。

協働で行った結果について、その有効性や効果を評価しなければならない。



関連して出た意見など

市が何をやっているのかわからないと協働についても十分議論できない。

合併協議がだめになった理由として、江南市のまちづくりの理念がしっかりしていなかったという考え方もある。それならば、この研究会で江南市は見直したなど言われるような理念づくりを進めなければならない。

市には「総合計画」というものがあるが、市民が使えるものではない。協働についても、市民としてどういうルールを作るかということが大切であると思う。

市議会と行政との関係はどのようなものか。協働を考える場合、議会にはどういう役割を担ってもらって、市民と行政とはどのような関係かということを考える必要がある。